

環境調査結果のお知らせ

令和6年6月6日9時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

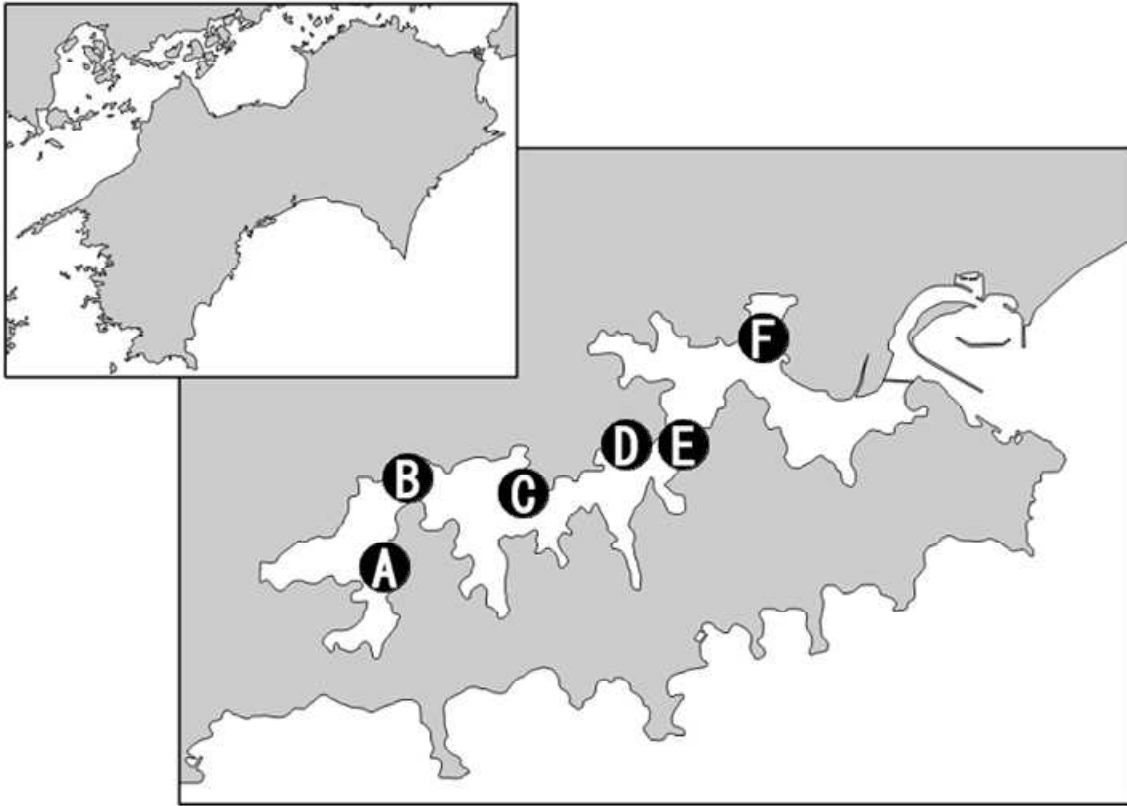
概況

検鏡の結果、魚類に対して有害なシャットネラ属が最高で663 cells/mL、ディクチオカ属が502 cells/mL、ケラチウム属が最高で231 cells/mL確認されました。シャットネラ属は漁業被害が想定される密度を超えているので、十分注意してください。また、麻痺性貝毒原因種であるアレキサンドリウム属が最高で375 cells/mL確認されました。アレキサンドリウム属は、貝類（食用を含む）を毒化させる恐れがあるので、十分注意してください。

水試小割前を除く定点において、10m及び底層が貧酸素状態となっています。

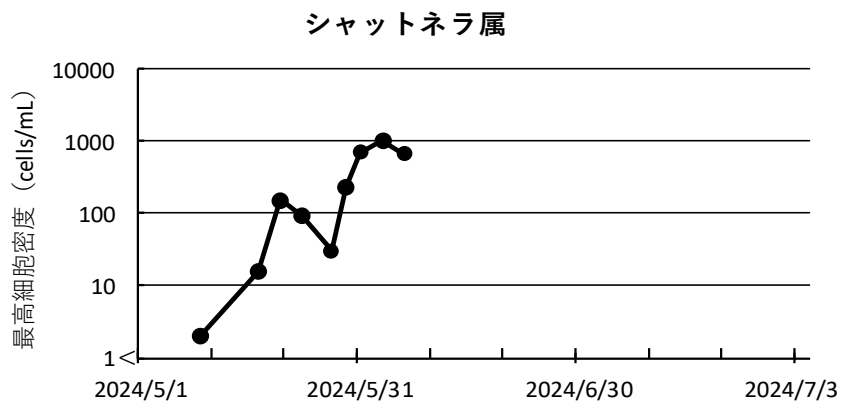
海や養殖魚、貝類の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度	水温	塩分	溶存酸素	シャットネラ	ディクチオカ	ケラチウム	アレキサンドリウム
	(m)	(°C)		(mg/L)	属	属	属	属
A 鳴無 (3.5m) 【09:33】	0	23.6	25.1	10.2	0	1	0	0
	2	24.0	29.1	10.5	1	0	0	0
	5	22.7	30.0	6.0	159	51	2	0
	底層 7.5	22.2	30.4	0.8	663	502	4	0
B 中学校前 (3.2m) 【09:40】	0	23.6	24.6	10.5	0	3	0	0
	2	23.8	29.0	11.0	0	0	1	0
	5	22.7	29.9	7.4	193	14	3	0
	10	21.7	30.7	1.3	365	113	19	0
底層 11	21.4	30.8	0.2	200	40	3	0	
C 目ノクソ (3.2m) 【09:50】	0	23.7	25.0	10.0	0	0	0	0
	2	24.3	28.3	10.7	13	0	7	0
	5	22.7	29.9	7.5	52	43	30	72
	10	22.0	30.7	3.0	81	29	38	12
底層 14.5	21.3	31.0	0.2	120	0	3	6	
D 光松 (3.2m) 【10:00】	0	24.1	25.9	10.6	0	0	10	0
	2	23.5	28.8	10.8	2	2	27	0
	5	22.9	30.2	7.2	1	39	231	375
	10	22.1	30.9	3.0	7	2	76	0
底層 15.5	21.3	31.0	0.4	2	0	2	0	
E 大鹿 (3.2m) 【10:10】	0	23.7	25.1	9.9	0	0	12	0
	2	23.9	28.3	10.6	2	4	63	0
	5	22.8	30.4	6.9	4	23	60	0
	10	22.1	30.9	3.4	2	1	73	0
底層 15.5	21.3	31.0	0.2	0	0	7	0	
F 水試小割前 (3.5m) 【10:20】	0	23.5	26.2	9.7	0	0	1	0
	2	23.4	29.5	9.2	0	1	2	0
	5	23.2	30.9	7.5	0	1	25	0
	底層 8	23.2	31.4	6.8	0	0	91	0



- A: 鳴無
- B: 中学校前
- C: 目ノクソ
- D: 光松
- E: 大鹿
- F: 水試小割前

令和6年度 浦ノ内湾におけるシャットネラ属の最高細胞密度の推移



参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレニア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5～8月	6～8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6～8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—	2～4月	5～6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3～12月	4～8月	4～11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクテオカ属)	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6～7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	10,000 cells/mL	8～9月	—	—
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ)	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8～11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキサンドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—	1～4月	3～5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	—	—	2～7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。